

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	ヒト脳脊髄腫瘍および固形癌からの安定脳腫瘍幹細胞株の樹立と新規治療薬の探索への基礎研究
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2025 年 4 月以前に 2015-2583「ヒト脳腫瘍からの安定脳腫瘍幹細胞株の樹立と新規治療薬の探索への基礎研究（責任者：棗田 学）」、 G2020-0038「悪性腫瘍におけるゲノム解析データベース構築に関するデータベース構築（責任者：若井 俊文）」、 G2022-0012「脳腫瘍手術摘出組織の遺伝子病理学的検索の研究（責任者：棗田 学）」、 G2020-0003「次世代シーケンサーを用いた小児がんのゲノム解析データベース構築（責任者：今村 勝）」 G2015-0816「固形癌における次世代シーケンサーを用いた遺伝子検査とゲノム解析データベース構築に関する研究（責任者：若井 俊文）」 G2019-0024「全ゲノムシーケンス解析を用いた固形癌遺伝子異常とその臨床的意義の解明（責任者：若井 俊文）」に参加した患者さま
③ 概要	脳腫瘍や固形癌の発生や悪性化に関わる遺伝子異常の多くは未だ解明に至っておらず、治療開発が進まない理由の 1 つである。そこで本研究では脳腫瘍の腫瘍細胞株を樹立し、その細胞株の遺伝子異常を調べたり、薬剤をかけて有効な薬物治療を探索する。さらには培養細胞をマウスに移植し、治療実験を行うことで、有効な治療薬を同定することができると考えている。
④ 申請番号	G2024-0022
⑤ 研究の目的・意義	各種脳腫瘍モデルを作成し、また、脳腫瘍や固形癌の原因遺伝子を解析することで新しい治療法を探索し、確立すること。
⑥ 研究期間	2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	摘出検体の余剰検体を培養し、培養細胞株を樹立し、その原因遺伝子の解析を行います。電子カルテに保存されている病歴を利用します。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧ 利用または提供する情報の項目	脳腫瘍または固形腫瘍の原因遺伝子 病歴（年齢、性別、死亡情報、治療内容）
⑨ 利用の範囲	新潟大学 脳神経外科、消化器・一般外科および分子細胞機能学

	野 量子科学技術研究開発機構量子生命科学研究所 量子超偏極 MRI チーム 米国アラバマ大学 脳神経外科および小児科
④試料・情報の管理について 責任を有する者	新潟大学 脳神経外科 特任准教授 棗田 学
④お問い合わせ先	新潟大学 脳神経外科 025-227-0653